

テーマ	子どもが主役の学校とは？
発表者 (所属)	企画者・司会者：三浦 大栄（岩手県滝沢市立滝沢第二小学校） 話題提供者：近藤 佑生（三重県桑名市立長島中部小学校） 瀬戸山 千穂（群馬県前橋市立粕川中学校） 村上 貴史（岩手県宮古市立鍬ヶ崎小学校） 三浦 大栄（岩手県滝沢市立滝沢第二小学校） 指定討論者：櫻田 武（秋田県大仙市立太田東小学校）
【発表概要】 《企画趣旨》 令和３年１月に、中央教育審議会による答申『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和答申）では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の理念が提唱されました。また、「自己調整学習」「学びのコントローラー」等、「子ども主体」を核にした校内研究や個人研究で奮闘されている先生方も多数いらっしゃいます。 一方、次のような実態（課題）を見聞するのも事実です。 ◆「子ども主体」の環境に行きつくまでのハードルが高い現場の状況 ・自己の経験則や成功体験、教育観等による「バイアス」 ・アップデートする余裕すらままならない多忙な環境 ◆「主体」という名の子どもの「放任」等 本シンポジウムは、これらの課題に正面から向き合い、令和答申の理念をもとに「子どもが主役の学校」実現に向けて、４本の話題提供をもとに話題提供をしていきます。そして、議論を深めながら「子どもが主役の学校」について視野を広め深掘りしていきます。 《話題提供》 三重県桑名市立長島中部小学校 近藤 佑生 授業において子どもが主役となるためには、授業の山場が重要であり、そのためにはアンカーをどうしていくかが大切であると考えています。子どもが意欲的に授業に参加できるように、ARCS モデルを活用した授業について、実践報告します。 ※ ARCS モデル：１９８３年、教育心理学者のジョン・ケラーが提唱した、学習者の学習意欲を高めるための動機付けモデル。 《話題提供》 岩手県宮古市立鍬ヶ崎小学校	

村上 貴史

「こどもの主体性を引き出す単元づくり～体育科ボール運動領域の実践を通して～」

体育授業では、運動が得意な子どももいれば、不得意な子どももいます。そうした子ども一人ひとりが、限られた単元の時間の中で主体的に学ぶためにも、単元づくりが重要であります。子どもたちが単元終了後に「どんな面白さを感じてほしいか」というゴールイメージをできるだけ明確にすることを、私は大切にして単元をつくっています。

本シンポジウムでは、ボール運動領域の実践を例にしながら、ゴールイメージから逆算して単元をつくる3ステップを提案し、子どもが主役となる授業づくりの在り方について議論を深めていきたいと思います。

＜ゴールイメージから逆算して単元をつくる3ステップ＞

- 1 適切なゴールイメージの決定
- 2 ゴールへのプロセスの作成
- 3 課題解決のための思考の枠組みの設定

≪話題提供≫

岩手県滝沢市立滝沢第二小学校

三浦 大栄

私が考える「子どもたちが主役となる学校」とは、子どもの活動に「主体性」があり、「必然性」のある授業であると考えます。

＜子どもが主役となる学校＞

★主体性：子どもが「自分で考える」「自己選択する」「参画する」

★必然性：学びの意味や価値を理解し、目的意識や相手意識を明確にもって活動する

これらを位置付けることで子どもが学びの中心に立つ、「子どもが主役になる学校」になってきます。

その中で、「子どもが主役の学校」実現のために必要なことは次の3点です。

① 教師の役割の転換

- ・子どもに教える場面と任せたり委ねたりする場面の教師のバランス感覚
- ・子どもと共に学習をつくり上げる伴走者（ジェネレーター）としての役割

② 学びの環境づくり

- ・「かかわり合い」が保障され、安心感のある中で自己決定できる場
- ・共感的態度があり、主体的行動が認められる、「承認・自己開示・参画」のある集団

③ カリキュラムの柔軟性

- ・子どもが、課題解決に向けてねらいとゴールを明確にしながら探究活動を保障する

カリキュラムデザイン

・子どもの関心や問いに応じて柔軟に調整できる教師側の「覚悟」

今回は、「総合的な学習の時間」での実践を事例にしながら、「子どもが主役の学校」の在り方として話題提供をして参ります。

≪ 話題提供 ≫

群馬県前橋市立粕川中学校

瀬戸山 千穂

子どもたちが主体性を発揮できる学校の条件として、①心理的安全性の保障、②教師の同僚性と学校文化、③子どもたちが主体性を発揮できるしくみや場 の三点があると考えています。いずれも重要ですが、わたしが特に難しさを感じているのは②教師の同僚性と学校文化です。この課題は現在進行形で向き合っていますが、今回は教師間の関係を築くための仕組みや実践、変化してきた先生方や生徒たちの姿についてお話ししたいと思います。